

「東北ブロック下水道ビジョン策定委員会」第2回を開催

平成15年9月8日(月)仙台市内において、第2回「東北ブロック下水道ビジョン策定委員会」が開催されました。

開催に先立ち、仙台市の広瀬川浄化センター(平成5年供用)を見学しました。仙台市は昭和49年に「広瀬川の清流を守る条例」を制定し、その一環として当センターは高度処理(BOD3mg/L)、オゾン消毒法等を実施していますが、初めて見る委員は処理水の透明度の高さや無臭に関心しておりました。

引き続き開催された第2回の委員会においては、下水道事業に係る目標像、方向性、課題等について事務局より提案を行いました。特に目標像に関しては、整備効果(アウトカム)として、快適な暮らしの実現、雪や災害に強いまちづくり、美しい東北の水循環の保全、環境への貢献、連携・協働の5つについて説明を行いました。これらに対して各委員より全体的に内容は良いが「東北らしさ」についての表現が不十分であったといった意見等様々なご意見が出されました。次にPIの一環として、東北管内の397市町村長と東北にお住まいの方々3500人へのアンケート調査についての説明を行いました。

次回は各委員からいただいた意見とアンケート調査を受けて、ビジョン案の提案を行います。

東北地方整備局 都市・住宅整備課



現地視察状況



委員会の状況

第2回東北ブロック下水道ビジョン策定委員会 議事要旨(案)

日 時：平成15年9月8日(月) 15:30～17:30

場 所：仙台ホテル(5Fカトレア)

出席者：

委 員 野池委員長、阿部委員、江成委員、中村委員、森川委員、横山委員
行政連絡会 国土交通省：東北地方整備局 黒田建政部長、高橋都市調整官 他
東北六県・仙台市：下水道事業主管課長 他

次 第：

(1)開会

(2)挨拶(東北地方整備局 建政部長)

(3)議事

- 1) 第1回委員会での意見とその対応
- 2) 東北地方の下水道整備に係る目標像について
- 3) P I調査の実施計画案について
- 4) その他

配布資料：

資料 - 1 委員会規約

資料 - 2 第1回策定委員会議事要旨

資料 - 3 第1回策定委員会での意見とその対応

資料 - 4 第2回委員会 検討資料

資料 - 5 第2回委員会 参考資料

資料 - 6 第2回委員会 説明資料

東北地方における平成14年度下水道整備状況について

参考：委員会に先立ち、現地視察(広瀬川浄化センター) 13:30～15:30

1. 主な意見等

下水道ビジョンの位置づけと役割

- ・下水道ビジョンは、今後(10～15年)の下水道整備の基本方針としており、県及び市町村は、将来の下水道の整備や管理を実施していくためのガイドラインとするものである。

東北ブロックの下水道整備に係る目標像について

東北らしい施策目標の検討

- ・事務局案は総花的で、東北としてはどうかという部分が分かりにくい。
- ・東北地方の下水道ビジョンとして、東北の水質をよりよい方向に持っていくことを掲げ、それに付随して汚水処理整備率を向上させるべきである。
- ・東北の下水道ビジョンで第一に求められているのはやはり汚水処理の早期普及と考え

られる。

- ・施策目標は、東北地方の現状をより詳細に分析した上で、住民にわかりやすい表現に工夫したらどうか。

- ・東北地方は、農業や畜産業が盛んなことから、それらから排出されるバイオマスと下水汚泥を併せて利活用することが望ましいのではないか。

流域の水質保全等

- ・平常時は良好な水質であるが、合流式下水道を有する地域等では、雨天時における水質が問題となっている。

- ・（都市）河川では水量の問題もこれから考えていくべき課題であり、下水処理水の活用も含め、検討していただきたい。

- ・水循環の保全の一つとして、ダムの上流域の汚水をダム下流へバイパスしている事例がある。

汚泥の再利用、温暖化対策等

- ・環境への貢献として、下水汚泥の消化ガスを発電等に利活用することが有効である。

- ・下水汚泥処理は焼却よりコンポスト化の方がCO₂の発生量を削減できることから、コンポスト化が望ましい。

連携・協働等

- ・下水道計画の周知に努めることや天水桶等による貯留施設設置等における住民やNPO等との連携、協働が重要である。

- ・基本的には、「住民が水を汚さないようにする」という啓発活動が重要である。

経営の健全化、維持管理

- ・財政の厳しい市町村が多いことから、効率的な汚水処理計画とする必要がある。

- ・初期投資コストだけでなく、管理コストが安く、管理が容易な処理技術の導入も考慮すべきである。

- ・地元の民間維持管理業者の育成も重要な視点である。

技術開発

- ・バイオマスの利活用の観点から、新たな下水道整備においては、ディスポーザや高度処理などの最新技術の導入を進めるべきではないか。

- ・ディスポーザの技術導入は、水処理の原則（固液分離）から考えると憂慮される。

PI調査の実施計画案について

- ・下水道施設の公園等への利用など、上部利用の仕方への要望を聞く質問を入れてはどうか。

- ・実施計画についておおむね了解された。（質問に意見等がある場合は9月9日まで事務局へ連絡する。）

2. 次回委員会について

- ・次回委員会は、10月下旬の予定である。

以上